
通話の後

ふるーつ

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

通話の後

【Nコード】

N1671D

【作者名】

ふるーつ

【あらすじ】

いつも通りの電話を終えた、蘭とコナンの心情です。ちょっと切なくなってるかも。

「じゃあね」

『ああ、またな』

ピツと電源ボタンを押して、ため息をついた。

電話がかかってくる事は勿論嬉しいのに。ただ……寂しいの。始まりがあれば、終わりがあるから。いずれ、通話を終わらせなきゃならないから。

あいつが、どこで何をしているかわからないこの状況には、もう慣れた。でも、次の電話がいつかかってくるかわからない事が…そして、かかってきたら必ず、切らなきゃなくなる事がつらいんだよね、きつと。

「…問い詰められれば、楽なのにな……」

そう。居場所を無理やり聞き出すことができれば、どんなに楽になるかな。

でも、それはできないから。日々携帯に送られてくる、わずか数センチ角の画面の中の文字で、満足するしかないんだから。

「…だめ、泣いちゃ、だめ……！」

ちよつと気を緩めると、すぐに涙が出てくる。通話中は、あいつに余計な心配をかけちゃいけないって自分に言い聞かせて、何とかこらえることができるのにな。

「私って、こんなに泣き虫だったっけ…」

思わず言った独り言に、昔のことを色々思い出した。うん、そうだった気がする。

昔から、よく泣いてた気がする。両親がケンカするたびに、学校で何かあるたびに、よく泣いては新一に慰められてた気がする。

（そういえば、そうだったな……私はもうずっと昔から、あいつに支えてもらってたんだ）

そういえば、『人』っていう字は、手書きでは一方がもう一方に寄りかかる。上が私なら、下は新一だ。

「ずっと、寄りかかっていられたらいいな……」

いつの間にか止まっていた涙は、私から寂しい気持ちまで拭い去ってくれたみたい。

「ふう……」

本当の声でアイツと話した後だったのに、何か言い知れない孤独感がある。

まあ、いつもの事だけど。

電話をかけるたびに、アイツが取るたびに、もう切りたくないって思っちゃまう。

ほんと新一の声で、ずっと話していたって。

この通話を終えたら、電源ボタンを押したら、もうオレは新一じゃなくなる。

もちろん、オレをちゃんと新一として見てくれる人たちはいる。

けど……アイツでなきゃ、埋められない穴があるんだ。昔からそうだった。

アイツが泣いてたら、何をしたって涙を止めなくなる。アイツが笑ってくれたら、もう大抵の嫌なことは吹っ飛んだ。

昔っから、オレはアイツに守られてるんだよな。

夢があつた。探偵になる事と、アイツを幸せにする事。アイツの幸せにオレが関わることができるなら、ずっとそばにいる。アイツ

の心と、笑顔を守る。

今も、どこにいるかもわからねーオレを想って、待っていてくれる蘭のために。オレを知らずに支えてくれる、アイツのために。

そーいや、『人』って手書きだと、1人がもう1人に寄りかかっているよな。じゃあ多分、上がオレで、アイツが下だな。

月明かりが仄かに照らす部屋で、期せずして同じことを心中で述べた2人は、やがて襲ってくる睡魔に従い、布団へと潜りこんだ。

（後書き）

ものすごく思いつきで、20分ぐらいで書いたこの話。思い切つて初の1人称に挑戦してみました。違和感とかあつたらごめんなさい。書いてる途中、ふと思いました。携帯つて画面小さいですね。そこに大量の文字を入れようと思つたら、自然スクロールが長くなるか、文字が小さくなると。

すいません、だからどうつて訳じゃないです。ただ、今更ながら気付いたのです。多分、この後書も相当な行数いつてるでしょうね。

感想やご指摘などありましたら、送ってください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1671d/>

通話の後

2011年2月1日04時41分発行